

第 11 回岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成 26 年 5 月 16 日（金）午後 7 時～午後 10 時 05 分

2 場所

岡谷市役所 6 階 603 会議室

3 出席者

委員 原豪志委員、林裕一委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森真由美委員
林幸三委員、薩摩林忠美委員、小林啓助委員、沓掛貴芳委員、濱一平委員
武居崇委員、八幡義雄委員、原山智委員、森本健一委員、荒深重徳委員
（名簿順）計 15 名
（欠席者：田中沙里委員、原史郎委員、古本吉倫委員、岩下貞保委員）

地質調査業者 (株)長野技研

岡谷市・岡谷市教育委員会

吉澤洋人教育部長、橋爪哲也教育担当参事、河西稔建設水道部長、山岸徹
企画課長、宮坂浩一危機管理室長、中島洋一土木課主幹、両角秀孝教育総
務課主幹、三澤達也教育総務課主幹、高橋卓教育総務課主幹、清水亮教育
総務課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後 7 時

2 議事

（事務局から会議の成立報告。続いて委員長から、本日の会議は自由闊達な意見交換を促すため、また個人のプライバシー保護を考慮し、非公開としたいと委員に諮った結果、異議なく了承され、冒頭を除き非公開で行うこととなった。）

<議事の内容>

- (1) 各分科会での検討内容について
- (2) その他

(1)各分科会での検討結果について

【委員長】

それでは、議事に移ります。

まず、今後の予定ですが、昨年 5 月にあり方検討委員会を立ち上げ、今回で 11 回目の会議になりますが、これまでに多くのご意見をいただきました。また、「現地存続」、「移転」、「統合・分散」の分科会においては、さらに細かい検討をしていただき、それぞれのケー

スを想定した場合の課題などが整理されてきていると感じています。

本日は、各分科会での検討内容について議論いただきますが、次回以降、提言に向けた検討を進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

次に、本日の会議の進め方ですが、会議を効率的に進めるため、時間を区切って進めたいと思います。

前回、「現地存続」、「移転」、「統合・分散」の3つの分科会の検討内容を報告していただいた中で、「現地存続」については、分科会としてのまとめがされておらず、本日の会議で一定の評価をするということでもありますので、少し時間を割いて1時間、「移転」と「統合・分散」については、それぞれ30分の中で意見交換をし、9時を目安に終了としたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、「現地存続」分科会のまとめ資料について、前回、事務局において「叩き台」としてA案からD案までに対する評価をしたとの説明がありました。「現地存続分科会 比較検討資料」の「資料1」についてページごとにご意見をいただきたいと思いますが、まず「資料1-1」についてご発言のある方は挙手をお願いします。

【委員】

前回、現地存続については市の評価ということでありましたので、今の僕の見解を話したいと思います。

まずA案は、「校地環境」の適合性が、上から△、△、○、○、○となっていますが、A案は費用を度外視して、安全な環境をつくるための工法を考えましょうということで考えられた市の案ですので、上2つ（地すべりやがけ崩れ等の自然災害に対して安全かどうか、建物等を安全に設定できる地質、地盤かどうか）は、△ではなく○でいいと思います。そうは言ってもおそらく市は、一抹の不安があり、完璧ではないということで△を付けたんだと思いますので、若干の△を付けるとすれば、△付きの○の評価でいいのではないかと思います。

次に、一番下の「周辺の景観との調和・景観形成」は、盛土のり面の改良のために東側斜面の自然環境が無くなるということで×となっていますが、△程度が相応しいのではないかと思います。

次にB案は、同様に上2つが×になっていますが、一番危険とされる管理棟のり面を若干すいて、校舎を比較的安全な方に建てるという案ですので、全く×というのはおかしいと思う。基本的にB案は、費用面を考えて、5億円程度でできることを効果的にやろうという案ですので、完全に危険を排除しているとは言い難いが、ある一定程度の危険は排除されていることを考えると、△が妥当ではないかと思う。

次に、「適正な面積・形状」の適合性は△が2つ続いています。2つとも○でいいのかなと思う。これは、あくまで現状の岡谷小の敷地に対してどうかという評価がされていますが、この委員会は今後の児童数を見込むと各学年2クラスずつの規模を前提に検討してい

ますので、そこに照らし合わせると、十分な面積だと思いますので、○でいいと思います。僕なりにB案を総合的に評価すると、どの程度の危険性が排除され、どの程度の危険性が存在するののかと言うと、1つは近年話題になっている東南海地震が起きた際に、どのくらい直接的な被害が出るかということがあると思います。1944年の東南海地震では、記録によると諏訪は震度6とありますので、岡谷の震度は5くらいだったと推測できると思います。実際に岡谷の震度が5なのか4なのかということがありますが、少なくとも1回は東南海地震に耐えて、それから70年経過していることを考えると、また加えて、のり面の斜面を若干緩くすることを考えると、同じ東南海地震に対してはそんなに心配は無いのではないかと推測されます。ただし、絶対に大丈夫とは言い難いことはあります。一方で、極めて稀な震度6強とか7とかの地震が来た時にはどうかと言うと、まだ危険があると言わざるを得ないと思う。でも、実際に震度6強とか7の地震がどの程度の周期で来るかと言うと、それは稀だと思う。ではあるが、今回の全国的な耐震化の流れは、そういう極々稀な大地震にも備えていきましょうということを前提に、全国の小中学校を耐震化しましょうということできていますので、基本的にその流れに沿って考えなくてはいけないと思いますので、このままB案だけでというのは言いにくいのかなと思う。また少なくとも、近隣の保護者等の同意が得られないと、B案は無いのかなと思う。以上がB案の評価です。

続いてC案ですが、1番の上の地すべり等に対して安全かどうかは、×になっていますがこれも厳しいと思います。新たな盛土というのはほとんど無いと思いますので、基本的に○の小さな△が付くくらいの評価でいいと思います。3番目（危険な高低差等のない安全な地形かどうか）の×となっていますが、高低差はあるが全く×と言うのも厳しいかなと。せめて△でいいのではないかなと思う。

次に、その下の面積関係も×が2つとなっていますが、何も現在の規模と比べることはないし、ただそうは言っても余裕があるわけではないので、△△くらいでいいのではないかなと。その次からの×は×でいいと思う。ただし、一番下の周辺の景観との調和は、せめて△くらいでいいのかなと思う。

D案は、面積関係の×2つと、校地利用の×は、△でいいと思う。

以上、ざっと話しましたが、僕の評価はこうなりますが、皆さんのお考えを聞きたいと思います。

【委員長】

評価の方法は、○×を付けたり、点数を付けたり、いろいろな方法がありますが、この辺りについて事務局どうですか。

【事務局】

まず、昭和19年（1944年）の東南海地震の話がありましたが、諏訪の測候所に震度計が設置されたのが昭和20年ですので、震度が観測されていない中では、諏訪は震度6ではなかったとの情報もあります。もう一方の情報では、諏訪は被害が出たが、岡谷はそんなに被害が無かったとの情報もあります。南高校付近で建物がちょっと何かあったという記録くらいしかないという状況です。ですので、昭和19年の地震に岡谷小の敷地が耐えたという数値的な判断は正直分らない状況です。

B案の敷地としての要件検証の校地環境については、現状よりも安全な方に働き掛けするという案ではありますので、考え方によっては委員さんのおっしゃるように△も妥当であるかなと思います。また他の委員さんのご意見をお聞きしたいと思います。

C案は、校地環境の一番上、お手元にC案の検証資料としてお配りしていますが、平面図を見てもなかなか理解が難しいということで、鳥瞰図的に3Dを描いてみました。そうしますと、北体育館と敷地の高低差が約21m（ビル6階の高さ）、南体育館・プールと敷地の高低差が約11～13mあります。黄色に塗ってある所は、土砂災害防止法の特別警戒区域になっていまして、その下をさらに切り下げることへの安全性がよくないということで評価しています。また、図面にある通り、切り土のり面が約200mくらいできること、北体育館と敷地の高低差が21mもありますと、やはり安全な校地環境ではないと判断しております。

また、C案は南体育館への取り付け道路が、管理上または緊急車両用に必ず必要になってまいります。その道を取り付けとなると、平地に120mくらいの道路が必要になってくることを考えると、敷地の面積が非常に厳しくなってまいります。C案の平面図では青い線で建物の配置が描かれていますが、実際には通風や日照等を考慮する必要があります。こういった工場のようなまとまりの配置はなかなかできないと思います。また、その校舎配置をしていくと校庭が取れなくなることから、必要な施設を配置するだけの面積が取れないという判断であります。私の方からは以上になります。

【委員長】

○△×の解釈に対してはどうか。

【事務局】

敷地としての要件検証のために、整備指針の中で重要とされる項目を挙げ、それに適合しているかどうかという視点で判断させていただきました。確かに判断に迷う△ではないかということもあると思いますので、そういう要素もこの中に入れてもいいのではないかと思います。

【委員長】

先ほど東南海地震の話がありましたが、どこでどのように起きるかは難しいところですが、

その辺り識者のご意見を伺いたいです。

【委員】

確率的には東南海地震の可能性は高いと思います。内陸部では諏訪のような非常に軟弱な地盤では増幅作用が働いて、その結果として被害が生じる可能性がある。丘陵地は液状化の可能性は低いですが、特徴的な地盤で震度が大きくなる特性があります。それに対してフォッサマグナの活断層は、確率は低いですが規模がかなり大きくなる可能性がある。いわゆる直下型の地震としての被害が生じる可能性がある。ただし、確率の算定は非常に難しい。評価が定まっていない。ただし、想定外とするわけにはいかない。しかも岡谷地区は、大町から甲府くらいまでの広範囲の断層が一斉に動くようなことがあれば、マグニチュード8クラスになる可能性がある。これは何とも評価が難しいですが。確定的なことは言えませんが、岡谷地区で言うと、相対的には平地よりも丘陵地の方がどうしても危険度は高いと言える。

【委員長】

東日本大震災では津波の被害がクローズアップされていますが、造成地の盛土がかなり被害を受けています。

【委員】

従来から地すべりを起こしているような所では、地震をきっかけに大きく動く可能性がある。その例が山古志村です。地すべり多発地域で地震が起きると、同じような斜面災害が起きる可能性がある。平地よりもどうしてもリスクが高くなると言える。

【委員】

出の洞は水を含んでいるんですよ。結構湧き水が出るんですが、素人考えですが、粘土層があつて下に染み込まない水がその粘土層の上を通過して、出の洞の道沿いに結構出てくるんですよ。ですから、粘土層の上に盛土が乗っていますので小さな地震が起きても地すべりが起きるんじゃないかと非常に危惧しているんです。

【委員長】

他にありますか。

【委員】

A案ですが、地盤改良をして抑止杭で止めるということもあるんでしょうけど、僕は最初から思っていますが、これで本当に安全なのかなと。余計に加重が乗って滑りやすい状況が起きるのではないかと思います。×に近い△ではないかと思っています。滑りに備えて

抑止杭という話ですが、この辺りは水が出ていることも踏まえると、はたしてこれが本当に安全な策なのかなと思います。

【委員】

C案ですが、撤去した土をどこへ持っていくかは別にして、カットして残った面に何か影響があるのか聞きたいんですが。

【委員長】

事務局どうですか。

【事務局】

軟弱な盛土は無くなりますが、写真にあるようにこの地域が土砂災害防止法による急傾斜地であるとか、いろいろな法律の中で危険だよと指定されている地形の特性がある所ですので、相対的に見るとここは丘陵地であるとか、傾斜地である根本的な危険要素は変わらない。残った部分も、まだまだ危険であると判断している。A案は盛土を取る代わりに杭を打ったり地盤改良したりする方法で、C案は盛土を取ってしまうという方法で、アプローチは違うが、結局は地域の特性は変わらない。

【委員】

約200mにわたって、約11～13mののり面ができるという話ですが、安全対策は行うのですか。

【事務局】

軟弱盛土を切り取っても、その下の地下の構造がどうなっているか、どういう地盤が残るのかということで、よく高速道路とかに斜面に格子型のコンクリートの枠がありますが、詳細な地盤調査をする中ではそういった切り取った斜面への補強をする可能性もあります。

【委員】

A案からD案までありますが、私はその中でどれが一番いいかということで考えました。子どもを危険な所にいさせるわけにはいかないということが出発点です。そう考えますと、B案は危険が残るので、現状と変わらないということになってきます。では、D案はどうかと言うと、北校舎の方に校舎を建てても、危険な所を通過して体育館やプールに行くことになる。そう考えると、これもどうかと。危険を取り去っていないということです。子どもを危険な所に行かせないというのが大原則ですので。次にC案ですが、これはなかなか思いましたが、ひっかかるのが自然環境が変わってしまうことです。今の岡谷小の良さの理由の1つに、自然環境がありますよね。カモシカも沢山出るようですね。しかし、こ

れだけ削れば自然環境は残らないというのが普通ですよ。岡谷小の自然環境から考えると、まず薦められないかなと。ただし、A案が出てから、B案、C案、D案と、何とか現地で存続したいという意気込みで案が出たことは、これは評価に値することだと思います。さらに教育委員会もそういう案を基に精密な案を作ってください、この努力も評価できると思います。そういう努力を評価しながら、B案とD案は安全性から疑問が残ります。C案は自然環境の所で疑問が残る。そうすると、私ならA案を押すしかないと思います。ただし、そのためには市の理事者や市会議員を説得する必要があります。何億もかける話です。もうこれは教育委員会のレベルを超えています。市議会で決定せざるを得ない。市の理事者や市会議員に積極的に働きかける覚悟で、もし1つ選ぶとすればA案になると考えます。

【委員長】

他の皆さんはいかがですか。

【委員】

私は岡谷市民ではありませんが、やはりどうしてもお金のことが気になります。議会を説得するためには、それなりの計画が必要になるわけですが、A案の最大の欠点は非常にお金がかかることにあります。ですので、A案を選択するには、それなりの努力が必要だという話だと思います。それに対して、B案、C案、D案はA案と同じような費用の算定がきちんとされているか非常に気掛かりです。A案と同じレベルまで算定がされているかということです。B案はコストを下げるために努力された案ですが、本当にその金額でできるのかよく分かりません。C案は本当に盛土の処理ができるのか、またそのためにいくらかお金がかかるのか。それらが全てA案と同じレベルで費用が計算されていないのではないかと思います。もし、その辺りがお分かりになれば。

【事務局】

ご指摘の通りだと思います。A案は、敷地造成の他に、既存校舎の撤去費、敷地造成のための測量調査費、設計費用、校舎西側の急傾斜地の対策費用、新校舎の建設費用等が総体的な費用が含まれています。しかし、B案は、既存校舎の撤去費、校舎西側の急傾斜地の対策費用、新校舎の建設費用等は含まれていません。C案も同様に、既存建物の撤去費、敷地造成のための設計費、新校舎の建設費用等は含まれていません。もし、C案に含まれていない費用を加えますとまだ18億円ほど足りません。また、6億円とされている敷地造成費用も市が試算しますと、13億5千万ほどかかります。11万㎡という土の処理を現実に行うためにどのような対応が必要であるかを考えますと、13億円以上かかります。それでも、場合によっては足りないかもしれない。市がC案を試算しますと、約31億円かかります。ですので、同じレベルでの費用比較はできていない状況です。

【委員】

校舎の建築費はいずれ必要になる話なので、校舎建築費を外して、プラスいくら必要になるのかという考えで比較してはどうか。

【委員長】

一番いいのは同じ内容で比較することがいいですが。

【委員】

校舎の建築費の話がありましたが、平坦な場所に建てるのと、傾斜地に建てるのでは、国の補助金の算定に違いはありますか。

【事務局】

平地でも傾斜地でも、補助金は変わりません。

【事務局】

補足しますが、建物の建築費用は変わらないとしても、それを造るために造成費用が必要であるということになれば、なぜその場所に建てる必要があるのかという話には当然なると思います。そもそも場所の選定で、もっと費用がかからない場所に建てられないですかという話は出てくると思います。

【委員】

小学校施設整備指針の中に、安全な校地環境等のいろいろな条件がありますよね。この辺りの条件に引っかかって、国の補助金に差が生じるのではないかと心配しています。通常なら1/2の補助が出ると思うが、それが出るのかどうか引かかる。

【事務局】

A案でも、30億円全てに補助が出るかは分かりません。その内の校舎建築費用の補助が出ても、その他の必要な対策費用に補助がつくかは分かりません。一般的に、地盤のいい所と比べた場合に、どうしてこんなに過大な費用がかかる所に建てるのかという議論になると思います。

【事務局】

もともと小学校の建設にあたりまして、用地買収は補助対象になっていませんし、敷地造成にも補助はありません。尚且つ、本当にこの場所に学校を建てていいんですかという議論はスタートから話題になると思います。

【委員】

地盤改良に補助は出ないということですか。

【事務局】

制度的に地盤改良に補助金はありません。学校を建築する際の文科省のメニューにはありません。

【委員長】

A案では、いくら補助金が出ますか。

【事務局】

A案の約30億円の内訳のうち、校舎建設費用に約13億円をみていますので、その半分の6億5千万円が上限ということになります。

【委員長】

東南トラフの指定がされているということで、地盤改良も補助になるということは難しいですか。

【事務局】

基本的に、文科省の補助は建物のみが対象になります。地盤が安定していないとなると、なぜそんな場所に学校を建てる必要があるのか、という話に戻ってしまうんだと思います。文科省は、あくまで建物に対して1/3から1/2の補助となります。

【委員長】

他にありますか。

【委員】

C案は私が提案したのですが、専門家に聞いたところ、何度も言っていますが岡谷小だけでなく直下住民の安全対策と抱き合わせで考えないと、この問題は解決しないのではということでした。これは、筑波の防災科学技術研究所の先生が現地視察と資料をもとに判断した見解です。では、どうしたらよいのかということと考えられたのがC案です。まず、資料に盛土が13mとありますが、10mです。また3Dも、校舎が非常に低く、かなり段差があるように見えます。断面を見ても、このようにはならないと思います。C案は盛土を撤去して、前の地山の形に戻していくという考え方です。のり面を1対1.5にしましたが、これは土木工学で言う安定勾配です。なので、のり面は安定勾配なので問題な

いと判断していただきたい。西側の勾配については何もいじっていないが、これは今までの現状でいくということでしたので。西側のがけが安定勾配でないなら、こっちも安定勾配にするか、のり砕工法にしていく必要があるのかなと思っています。

さっきの○△×の話だと、地滑りやがけ崩れに対する対策としてC案を作りましたので、これは是非◎にしてもらいたいと思っています。それと、敷地分断の高さは11～13mと書いてありますが、10mです。あと面積についても、今後岡谷小の児童が増えるわけではないので、市がどれくらいの規模を想定しているのか、ちょっと聞きたいですが。

【事務局】

移転に必要な敷地面積としては、13,500㎡という話をしています。

【委員】

C案は、約9,400㎡くらいの面積は確保しています。これに南体育館やプールを加えれば、約10,000㎡は越えてきます。また、逆に約10,000㎡が必要になるかどうか、建築の専門家に確認する必要があるのでは。いずれにしても、おおよそ現状の面積が取れますし、更に駐車場は現状よりも多く取れると算定しています。

【事務局】

まず、断面図ですが、切り始めの所からいきますと、確実に11～13m取る必要があります。鳥瞰図では校舎が低いという話がありましたが、ここは第一種低層住居専用地域なので、建物の高さは10メートル（2階建て）しか建てられません。C案は3階建になる。

【委員】

この3Dを見ると、校舎がかなり下にいっているように見える。高低差っていうのは、例えば南体育館と校舎の高低差が10m出るからだめという話ですか。

【事務局】

まず小学校の校舎を建てる時には、ひとまとまりの建物では無理ですので、当然建物と建物間に余裕が必要になってきます。加えて、南体育館への取り付け道路が必須になりますので、平地を確保が難しいと思います。

【委員】

平地っていうのはバリアフリーの道ですか。

【事務局】

日常的に使う道です。最低でも幅5m長さ120mの道を、敷地内に造る必要があります。

そうしますと、これを平地の中で造成しないとイケない。

【委員】

それには案が2つあります。1つ目は、間下口から上がりきった所からのり面を使って斜めに南体育館へ上がる道をつくる案。2つ目は、南体育館とプールは盛土じゃないので敢えて残しましたが、取り付け道路が必要なら逆に地面を10m下げます。そういう方法もあります。また自然環境の話もありましたが、10メートル下げれば今の自然状況は保てません。あかしあも無くなります。しかし、現状はあかしあの倒木の危険性や落ち葉、花粉から、逆に切ってくれないかというクレームがきております。なので、全てのあかしあを伐採して今度は桜や紅葉を植える。根が張る桜や紅葉を植えれば、将来的にはのり面が安定し、更には花見もできます。新たな環境を整えていきます。あと、費用の問題もわれわれは6億5千万円としています。校舎は13億円、あとはそれにプラスして、植栽や残土処理、仮設校舎の費用を考えています。そうすれば20億円ちょっとを見込んでいます。校舎建設のための補助金、直下住民の安全対策のための補助金、避難道路を造るための補助金の、3つの補助金を考えていますが、それは市が何とか取ってきてもらいたいと思います。それと、残土処理についても市が見つけてほしいと思います。

【事務局】

今資料を配付しましたが、左の表は岡谷区のコンサルタント、右の表は市が試算した経費になります。小計をみると、6億1,200万円(岡谷区案)と13億4,500万円(市)と差がある。トータルだと、23億7,300万円(岡谷区)と31億4,300万円(市)と差がある。また残土処理について検討したところ、諏訪地方だと富士見に民間の受入先がありますが、単価が非常に高い。そういったことを踏まえて試算しますと、31億4,300万円になります。ただし、注意書きがありますが、様々な不確定要素があります。それでも控えめに試算しました。

【委員】

残土処理については、岡谷区に区有林がありますので、そこに11万 m^3 以上入りますので、市は経費を約5億円としていますが、岡谷区なら約1億円でできると思います。

【事務局】

10数万 m^3 の土を埋める場所があるとしたら、それを押さえるためにえん堤が必要になるのでは。

【委員】

えん堤ではなくて、なるい勾配と土で造ります。さらにそこに池を造って、埋土をしてい

きます。

【事務局】

それは受け入れ先が大規模な造成工事が必要になることと同じです。それにいくらかかるか分かりません。

【委員】

いえ、それも全部費用計算をしています。ですが、費用についてはすり合わせが必要になりますので、一概に市の金額でないとできないというようにはならないと思います。岡谷区のコンサルは現地を見て設計していますので、いい加減な数字ではありません。

【委員長】

県も残土処理には困っていて、山に埋める方法を取りましたが、それだけの土を埋めるとなると森林の開発にかかる申請も必要になりますし。

【委員】

申請も必要になりますが、その辺りは設計士も承知しています。

【委員長】

それが現実的な案かどうか心配です。11トンダンプが通れる公道があるのですか。

【委員】

あります。大型ダンプが2台並んでも十分な道路があります。

【委員長】

約2万2千台のダンプが市街地の中を通ることの方が心配ですが。

【委員】

直下住民の安全対策にもなりますので、岡谷区民の同意は当然得られると思います。

【事務局】

金額の論争みたいになってしまっているのがいかなものかと思います。A案であれC案であれ、実際にそれらをやるとなると、億を越える調査費が必要になってきます。現在かけた費用の中で、どれだけ客観的に判断するかが大事なことだと思っています。ですので、例えばボーリング調査を5本しかやっていないから100本やればいいのかなんていうような、何が何でもやればいいのかでは非現実的であって、現状のなかで客観的にデータを探るとい

ことがあると思います。時間も限られている中で、どこまで実現性があるか、妥当性があるかを判断すべきであって、金額論争は馴染まないと思う。現実性やその他の検討事項を客観的に掘り下げることが必要ではないでしょうか。

【委員】

コンサルは現地を見て試算していますので。

【事務局】

10何万㎡の土が入るから大丈夫と言うのは、いかにも安易ではないかと。

【委員】

私が言っているのは、小学校だけの問題ではないということです。震度6とか7の地震で、盛土が崩落する危険性があると聞いている。

【事務局】

委員さんの提案が、直下住民の安全対策も考えていることはよく分かります。ただ、A案も軟弱な盛土を解消して、それによって直下に住む住民への影響も抑えていくこともありますし、学校がなくなった後、学校敷地として使わないということであれば、また別途直下の住宅への安全対策というものを考えていくことは、以前からお話をしております。

【委員】

具体的にどういう対策ですか。

【事務局】

学校敷地としてはなくなるので、全て平らでなく斜面があってもいいので、なるべく搬出する土を減らして安定勾配をつくる。例えば公園や地域のコミュニティの場としても利用ができることも考えられるのではないかと。学校敷地と公園では、求められる地盤の強度のレベルは変わってきます。

【委員】

金額は？

【事務局】

金額はまだ出ていません。

【委員】

いいですか、もう金額の話は止めましょう。お金ことはこの場では議論になりません。次に進みましょう。

【委員長】

それでは、「移転」の議論に移ります。

【委員】

移転分科会で検討する中で、文部科学省の指針が出てまいりました。何階建でもいいから体育館もプールもビルに入れれば、学校としては残るかもしれないけれども、それが学校として、子ども達が充実した小学校生活を送れるかどうかを話し合ひまして、いずれの案も難しいのではないかという話でまとまっていると思います。

【委員長】

都会では敷地が無いから、やむを得ず上に伸びている学校もある。望ましいのは何階までですか。

【事務局】

3階までです。

【委員】

現地存続なら、今の自然環境が維持できないというデメリットがあり、移転なら構造上のデメリットがあり、統合・分散なら、児童が分かれてしまうというデメリットがある。どれを取っても、どこかを折れるしかない。今の場所で、あのままを残すには……。

【委員】

小学校施設整備指針は、教育環境に必要なことはこういうものだということを示しています。敢えてそれを否定する理由があるのかどうか。

【委員】

私は移転分科会にいましたが、先ほどと同じように、この中で選ぶならどれかを考えると、小学校の時代は一番自然に対して興味をもち、向き合っていく年代なんです。皆さんも昆虫採集したでしょ。女子なら、草を摘んで花瓶にさしたりとか。小学校の時代は、自然に対して非常に興味を持って積極的に働きかける年代なんです。ですので、自然環境があまり良くない場所は除外しなければいけません。長野市や松本市には、街中の学校もある。ただし、それは敷地が広く、中に川が流れているとか木が茂っているとか、トンボやセミが来るんです。中央町は、トンボ一匹飛んでいない。分科会では教育的にどうなのかとい

う話をしました。次に駅南は、やぶかはいるがトンボも蝶も飛んでいない。側に天竜川がありますが、あれは自然というより水が流れている程度。なので、中央町と駅南は、抜いて考えなくてはいけない。岡谷市の小学校の教育を考えると、これらの場所は考えられません。ただし唯一、残った成田公園は良い。もし、どうしても1つ選ぶとなると成田公園だと私は思います。ただし欠点があります。それは、校舎と校庭が離れていることです。それはまあ何とかいいにしても、もう1つの欠点は校庭が狭いこと。この案を取るとなると、校庭を広げるためには周辺の民地買収が必要になります。それができれば、成田公園なら何とかなる。あの場所には招魂社もあります。セミも来る。ですので、1つ選ぶなら成田公園になるが、ただし用地買収が必要になる。検討した者として、そのように考えます。

【委員】

自然が乏しいという面から見れば、中央町や駅南は良くないと思いますが、私は教育に必要なのは自然だけではないと思います。中央町や駅南に建てることで、良いこともあると思います。今それをこの場でどれくらい挙げられるかは分かりませんが、一番大事なことは自然だけでしょうか。

【委員】

一番大事なことは自然です。これだけは言えます。

【委員】

自分も移転分科会に参加していましたが、成田公園は用地買収をせずに、敷地造成だけで足りるという話ではなかったでしょうか。造成で足りるっていいんですよね。

【事務局】

どのくらい造成が可能なのかを検討したところ、両側が斜面ですので、1メートル削り、2メートル削りとやっていくと、徐々に面積が広がっていきませんが、5m削ったとしても、それほど面積が増大するわけではないことが分かりました。校庭は2,000㎡ありますが、どれくらい広くできるか検討したところ、道路をできるだけ谷側にふって、なるべくまとまりのある土地を広げられないかということを検討しましたが、手を掛けるわりには面積が確保できないことが分かりました。仮に造成をしても、なかなか効果が得られないという状況です。

【委員長】

移転について他に意見はありますか。

(なし)

それでは、「統合・分散」に移ります。

【委員】

私は、あり方検討委員会として1つの案を選んで市に提出すると思っている。現地存続と移転は同列で比べられるが、統合・分散は無理だと思う。現地と移転がダメなら最終的に統合・分散になるわけだから。私は分科会を始める時にも、統合・分散の議論は不要ではないかと言いました。スケジュール的なことがあるということで、並行して検討することになりましたが。

【委員】

私も同じ考えです。現地存続が一番いい。それがダメなら移転、それも無理なら統合・分散を考えざるを得ない。よく分かります。統合・分散になった場合にはどのような条件が必要になるかを考えたい。神明小は長野県下で1つですが、田中小はもう1校あります。統合・分散になれば、名前は変えていくことになるだろう。岡谷小が吸収されたというようにならないように、学校名は考える必要があると思います。あともう1つ。私は頼まれればいろいろな学校に授業に行きますが、そうやって比べると、岡谷小の児童は良いんです。発言内容、態度、書くこと等が非常に前向き。それがなぜかを考えると、岡谷小の学習指導研究会にあると思う。全国から授業を見に来る。先生はみっともない授業はできない。統合・分散になったら、そういう伝統や理念や考え方を残してほしい。それをやるのに必要なことは人事ですが、これはできるんです。長野県の場合、一般の先生の人事は校長会で決めます。これは特別なやり方です。本来は、市町村教育委員会が人事を行うが、長野県の伝統としてそれを校長先生に委託している形を取っている。なので、岡谷小の先生の半分か 1/3 くらいは統合先の学校に送り込める。統合するなら対等合併が必要。そのようにお願いしたい。

【委員】

委員さんがおっしゃる通りだと思います。別の角度から言うと、今後岡谷市の子どもは確実に減ります。2040年には今の6割程度になるので、30年後には単純計算で180人になる。そうすると、今の長野県の基準で言うと、単級の6学年となる。当然、担任の数は減り、専科も加配もどうなるか分からない。全ては学級数で教員数が決まることになる。今の教育サービスは確実に減る。それが現実です。そう考えると、現状にあまりとらわれるのではなく、将来を見据えるべきだと。統合は、岡谷市が避けて通れない課題。財政規模は縮小する。そう考えると、今回の問題は、将来に向けたモデル的なプランとして考えるべきだと思う。岡谷小の伝統をどう考えるか。学校名は変えて、特色ある夢のある新たな学校づくりが必要ではないか。地域の学校が無くなることの寂しさは想像できますし、署名の重みも分かりますが、何よりも子どもの安全安心が求められる。現状は危険。

移転もあるが5階、6階の校舎は小学生に向かない。自然環境も本当に大事だと思う。特色ある学校づくりをどう進めるか、これには時間がかかる。H28年開校なら、もうタイムリミットに来ている。早急に結論を出す必要があると思います。

【委員】

私は、現地も移転も無理なら、分散になると思っていた。統合となると、岡谷小だけの問題ではなくて、近隣の学校や通学区の話が出てくる。なので、短期間できちんとした統合ができるのかなと思っていた。箱根町の統廃合の例では6年かかったようだ。今タイムリミットという話があったが、受け入れ先の増築等のハード面の整備は間に合ったとしても、ソフト面を考えると、本当にH28年から開校できるのか心配です。

【委員】

そもそも統合・分散分科会と言っていますが、中身は分散分科会です。統合と言った方が何となく聞こえがいいから、統合を入れただけ。やることは、実際には分散です。

【委員】

統合でも分散でも、言葉はいいんです。大事なことは、共に新しい学校をつくるということです。言葉にとらわれていけません。

【委員】

それは大人の論理です。子供は分散としか考えないと思います。

【委員】

統合・分散分科会だけがソフト面の対策を話し合ったが、結局はみんなでがんばろうではない。

【委員】

どういう特色ある学校をつくかで、ソフト面もハード面も変わってきます。今後のスケジュールがありますが、職員やPTAの交流等を早く交流などをしないといけない。

【委員】

最終的に分散となり、あと1年半の間でいろいろな問題が起きても、最低限の形でもH28年から開校するのですか。

【事務局】

児童のケアやPTAなどの課題については、必要な措置を取ったうえで、H28年からスタートします。H28年以降、危険な所の子どもを通わせることはできません。

【委員】

子供の安全とは、地盤だけのことでいいんですか。ソフトの面で守ってあげないと。

【事務局】

ですので、先生達にも入っていただく。

【委員】

ソフト面への対策は、このくらいやったから大丈夫というような効果が分かりません。耐震工事なら数値で分かりますが。

【委員長】

準備委員会が設置されれば、そのようなことを議論ができると思います。

【委員】

分散の場合、周辺の学校の余裕教室はどのくらいありますか。

【事務局】

神明小については十分吸収できる余裕はあります。

田中小は最大で8教室足りなくなる。

【委員】

今現在でどのくらい余裕がありますか。

【事務局】

現在、田中小は余裕教室が4教室ある。神明小は7教室。この中には、現在学年室として使用している教室が入っているため、それを普通教室として使用した場合の数だが。

【委員】

児童数の把握は難しい。36人なら2クラスになるし、35人なら1クラスになる。1人の違いで、ハード面の整備が変わってくる。

【委員】

統合・分散分科会が一番の課題は、子どものメンタルの問題ですか。現地分科会は地盤だし、移転分科会は面積ですが。

【委員】

心のケアは大事な問題です。

【委員】

一番いいのは、どこかにみんなで移転にするか、岡谷小の今の1年生が卒業するまで待つかのどちらか。両方とも、現実的ではないですが。

【委員】

期間的に、密度を濃くしてやらないといけないですね。

【委員】

期間があっても、解決できないこともありますよね。

【委員】

そもそも少子化だから、学校を減らそう無くそうという考え方でいいんですか。

【委員】

人がいなければ学校の経営ができません。

【委員】

学校が無いところに誰が住もうと思いますか。だから岡谷市は人が入ってこない、どんどん人がいなくなる、それでお金が入らない、衰退していくんですよ。

【委員】

岡谷市だけがそうではありません。

【委員】

単純に少子化だから学校を減らすっていう考え方でいいんですか。

【委員】

小さな学校がいくつもできても、子ども達にとって本当にそれでいいのでしょうか。ある程度の数がいないと、集団の中で育つことができません。

【委員】

湊小は現に1学年に1クラスしかありませんよね。それは教育がなっていないということですか。

【委員】

そんなことは言うておりません。将来的に、小さな学校が岡谷市の中でいくつもいくつもできて、それでやっていけるのであればそれでいいかもしれないが、財政的な面から見れば非常に厳しいのではないかと思います。

【委員】

それは、大人の考えですよ。そういう議論を岡谷市は今まで何もやってきていないんですよ。

【委員】

これから始めればいいんです。

【委員】

一番は子どもの安全安心です。

【事務局】

課題がある中で、どうしたらいいかということをお場で考えているわけです。

【委員長】

いろいろな意見が出ましたが、まだ言い足りないこともあると思いますので、アンケートを用意しました。(アンケート用紙配布)

【委員】

確認なんですけど、田中小を増築するとなるとタイムリミットはいつ頃ですか。

【事務局】

分散の決定をいつ決めるかということに直結すると思います。8月とか。

【委員】

アンケートですが、もう一度くらいこの議論をした後、書いた方がいいのではないですか。

【事務局】

今日含めてあと3回の会議で提言をまとめたいと考えています。次の会議では、皆さんの意見をまとめて、検討委員会としての考えをどのようにするかということ話し合っていきたいと考えています。

【委員】

分かりました。

【委員長】

事務局からアンケートの書き方の説明をお願いします。

【事務局】

「現地存続」、「移転」、「統合・分散」に対する率直なご意見、お考えを記入し、ご提出いただきたいと思います。また、この記入用紙を使わず、E-Mail 等にてご意見をお寄せいただいても構いません。提出期限は、5月26日（月）、提出方法は、E-Mail、FAX、郵送、または事務局へ持参していただいても構いません。

【委員長】

それでは、26日までにアンケートの提出をお願いします。
次回の日程について、事務局からお願いします。

【事務局】

次回、第12回検討委員会ですが、6月上旬を予定しております。日時、会場が決まり次第通知いたしますので、よろしくお願いします。

【委員長】

ありがとうございました。
それでは、以上をもちまして、第11回あり方検討委員会を終了します。
お疲れ様でした。

閉会 午後10時5分